

下水道管理のスペシャリストをインドネシア・スラバヤ市へ派遣！

～専門家派遣事業を活用した環境都市への取り組み～

シンガポール事務所

皆さんはインドネシアの第2の都市をご存じですか。それは今回専門家派遣事業が実施されたスラバヤ市です。東ジャワ州の州都スラバヤ市は人口約300万、インドネシアでも特に経済発展が著しくクリーン&グリーンシティを市のスローガンに掲げ各種の取り組みを実施している先進的な地域です。

当事務所が実施する専門家派遣事業において、このスラバヤ市へ2013年10月21日(月)から24日(木)まで、福岡県の職員が下水道管理の専門家として派遣されました。

・スラバヤ市が掲げる目標と現実

初日、スラバヤ市環境局長よりスラバヤ市の下水道分野の現状説明がありました。スラバヤ市はクリーン&グリーンシティを目指して現在各種取り組みを行っており、例えば今まで剥き出しの状態だった下水道の地下化を行い、その上に車道を作る等をしてはいますが、まだ多くの問題が残っています。オランダ統治下に作られた側溝は、幅が狭く重機が入れないため今でも人力で作業を行っていること、急激な都市化により仕事を求めて



環境局長からの現状説明

周辺の農村部から人口が流入し、川沿いに不法住宅を建設して住み着いてしまうことによって、清掃作業用の重機を進入させる場所が無くなったこと、その上、生活污水を直接河川に流すことにより、下水道の水質を悪化させていること、また一部の住民によりゴミなどが無造作に河川に捨てられ清掃作業を難しくしていること、さらに前述の地下化した下水道の清掃についても進入口が小さいため人力での作業になっていることの説明がありました。

こうした現状を踏まえ、下水道に堆積したゴミや土砂、生活排水等を効率的に清掃する方法や、地下化した下水道を重機等により清掃する方法を指導してほしいとの要望がありました。スラバヤ市としてはこれらの問題を解決し、環境への取り組みを向上させたいとのことでした。



現場視察の状況

現状説明の後、不法住宅のため清掃作業がうまくできない箇所と、人力で下水道を清掃している現場の視察を行いました。日本の分離排水と違い、河川にゴミや土砂、生活排水が直接流れ込んでいる状況に当初専門家も驚いていましたが、現状に合わせた具体的な解決方法がその場で提案され、スラバヤ市職員は興味深く聞いていました。

・今あるゴミ、これからのゴミ

今あるゴミや堆積物を除去するため、専門家から放水車やバキュームカー等の重機を使った作業方法の提案がありました。また重機が進入できない狭い側溝に対しては人力での作業方法の提案がありました。また今後の予防策として下水道の入口など清掃作業が容易にできる場所にうまくゴミが集まる取り組みなどの必要についても提言されました。



講義の状況1



講義の状況2

現状を復旧する方法とともにこれから発生するゴミをいかに不法投棄させないようにするかという観点について専門家が繰り返し提言されていたことが印象的でした。市民がいかにゴミを捨てないようにするか、具体的な事例として、日本では自治会レベルで定期的に清掃活動を行い近隣住民同士で清掃意識の向上を図っていること

や、小学生がゴミ処理場等を見学し、分別やリサイクルの重要性を指導されることなどが説明さ

れました。

また、行政側の努力として効率的に下水道を管理し、問題が深刻化する前に清掃を実施することの必要性についても説明されました。スラバヤ市では、市が重機を所持し工事も行っていることに対して、日本では、工事等民間にできることは民間が行い、行政は管理業務を主に行っていることが紹介されましたが、この考え方が今のスラバヤ市には無いことから市職員は非常に興味深く専門家の説明を聞いていました。

• 最後に

「ゴミがゴミを呼ぶ。」これは専門家による講義最終日の総括の言葉です。日本では小さなころから聞いているフレーズかも知れません。スラバヤ市では現実に今堆積しているゴミの問題の解決が大事で、それが無ければ前に進みません。しかしながら今後ゴミを不法投棄させないための啓蒙活動を通じた未来への投資も必要です。専門家の一言がクリーン&グリーンシティを目指すスラバヤ市の計画をさらに推し進めることを期待して、今回の専門家派遣事業が終了しました。

【自治体国際協力専門家派遣事業に関するお問い合わせ先】

財団法人自治体国際化協会交流支援部経済交流課

電話：03-5213-1726

(下村所長補佐 愛知県田原市派遣)